

部 長 鈴木 健司
研究主任 山田 一貴
部 員 数 14名

1 研究主題

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向け、
自ら工夫し、創造する生徒の育成
— 考える視点を大切にした学び合いの授業を通して —

2 はじめに

本研究では、環境が変化している世の中で、自らの生活を工夫し、創造して実践していく生徒を育むために、ICT機器を活用して授業実践を行っていく。タブレットPCの使い方を工夫した授業構成と、将来も含めた実生活で役立つ実習を行い、ふりかえりなどから成果と課題を考察していきたいと考える。衣生活、住生活、食生活、家族と子ども、消費生活などの多岐に渡る分野で、持続可能な社会の構築についても授業の中で触れることにより、自分と周りの人の生活を工夫し創造できる生徒を育てていきたいため、本題目を設定した。

3 研究経過

(1) めざす生徒像

本研究では、目指す生徒像を以下のように設定した。

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向け、既存の知識や考えを応用するだけでなく、新たな視点や発想を取り入れ、自ら工夫し創造することができる生徒

自ら工夫し創造する資質や能力が育まれた結果として、社会や生活の中から自ら課題を見つけることができる生徒の姿がある。より困難な課題に直面しても、自らの考えを見直したり、他の人の解決方法の良さに目を向けたりして、複数の視点から対話することにより、よりよい解決方法を導き考え出すことができる。

(2) 研究の仮説

「自ら工夫し創造する」ためには、基礎・基本的な知識や技能の習得を図るだけでは十分ではない。生徒一人一人の生活を基盤とし、さまざまな生活体験を互いに関わり合う中で知ることにより、自分自身にとってよりよい課題解決の方法を見つけることが大切である。そのために、意図的な生徒同士の学び合いが必要であると考えた。加えて、ICT機器を活用することにより、データとして見返すことができるので、自分自身のふりかえりをするときに役立てることができる。

(3) 研究の手立て

ア グループ活動

一つ目は、グループ活動の活用である。3～4人のグループで役割分担を行い、順番に活動していくことにより、お互いの活動の様子を観察することができる。また、いつでも相談できるため課題の解決方法について話し合ったり、アドバイスをしたりすることが可能となると考えた。

イ タブレットPCによる動画撮影

二つ目は、タブレットPCによる動画撮影である。生徒が自らの行動を見返して、よくできたところや改善点を見つけることができると考えた。単元学習を終えたふりかえりを記入するときにも役立てることが可能となると考えた。教師にとっても、全員分を授業後に評価をすることがしやすくなると考えた。

4 研究の概要

以上のことを踏まえて、「5編 私たちの成長と家族・地域」（2章 幼児の生活と家族 ⑤支えられて身に付ける生活習慣）で実践を行った。

ア 指導計画

第1時	幼い頃を振り返ろう
第2～3時	幼児の体と心の発達
第4時（本時）	支えられて身につける生活習慣
第5～6時	幼児の生活と遊び
第7時	幼児との関わり方の工夫

イ 授業の様子など

<めあて>

乳幼児の気持ちを考えてオムツ替えをしてみよう

<授業のねらい>

- (1) 幼児の生活習慣について理解し、幼児を支える家族との役割であるオムツ替え（テープタイプ）の技能を習得することができる。

（知識・技能）

- (2) 乳幼児に対しての声かけや表情などが、乳幼児の心の発達にいい影響を与える可能性があることにも気づき、幼児との関わり方を工夫することができる。

（思考・判断・表現）

- (3) 幼児との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

（主体的に学習に取り組む態度）

<実践の内容>

- ① 【導入】オムツ替えのイメージを話し合い、大変さに気付かせる。赤ちゃん人形に対して、グループで相談しながらオムツ替えを実践させる。困ったことを共有し、一例としてオムツ替えの方法を示した動画資料を見させて、自分たちの実践と比較させる。

※1) オムツの中身は汚れていることを想定できていない場合は、教師が声をかける。

※2) 何もない知識の中で、とりあえずやってみる気持ちが大切ということを伝える。

- ② 【展開1】本時のめあて「乳幼児の気持ちを考えて、オムツ替えをしよう」を示す。オムツ替えの技能習得のため、グループで練習をさせる。お互いの実践の様子を見て、アドバイスをさせる。練習時でも、本番の動画撮影の練習を行わせる（図1）。

※1) オムツ替えに集中し過ぎて、乳幼児への声掛けや表情を忘れないように声をかける。

※2) タブレットP Cで動画撮影を行う時に、手元がしっかり写るように工夫することを伝える。



図1:動画を撮影する様子

- ③ 【展開2・まとめ】練習用の動画を見ながら、改善点を話し合い、全体で共有させる。オムツ替え本番を行い、動画撮影したものをロイロノートの提出箱へ提出させる。撮影した動画を見ながら、本時のふりかえりを記入させる（図2）。ふりかえりをグループや全体で共有させる。

※1) 発表を聴くだけではなく、よかった点や感想など意見交換することを伝える。

※2) 自分の生活を豊かにできそうなことの例として、将来のことも含めてよいことを伝える。



図2:ふりかえりを記入する様子

ウ 成果と課題

生徒のふりかえりに「オムツ替えに集中しすぎて、声をかけられていなかったことが動画を見返すことによって気づいた。声かけや表情にも気をつけたいと思った。」という記述があった。動画を活用して自身の取り組みをふりかえることができていた。また、他の生徒は、「オムツ替えの時に、汚れをイメージすることができていないと気づいたので、汚れているところには、身体を置かないことやオムツを早く巻くなどするといいいよと周りの人からアドバイスをもらえた。」と記述していた。グループ活動により自分では気づくことのできない視点を得ることができていたことは非常によかった。

ロイロノートを使うことにより、タブレット上で図が書けるため、納得のいくまで何度も書き直すことができた。また、全体共有の場でも提出してもらった図を個人のタブレットで確認できるため、言葉だけでなく図を見せながら説明することで視覚的にイメージさせやすかった。ペアやグループでの活動もお互いの画面を見せあいながら、イメージを共有し合いながら、話し合うことができていた。

今後の課題として、汚れのイメージをつけるために絵の具を付けておいたり、実際のオムツ替えの様子をイラストや動画で紹介したりすることで、実践に近く、実感の伴った授業になると考える。

5 まとめ

今回はオムツ替えの実践のみであったが、他の場面でもタブレットPCやロイロノートを活用して、学びが深まるように工夫をしてきたい。動画撮影を行った調理実習、介護実習など実技技能を取得するために実際の様子を記録に残して振り返るということは生徒の学びを深める方法として非常に有効だと感じた。タブレットPCの機器の取り扱いや不具合に対してはその都度、臨機応変な対応が必要となることが課題ではあるが、動画撮影により緊張感をもち実習が行えることはよい。また、電子機器だからこそできる資料配付、情報共有など様々な場面で提案していく。共有ノートなどを用いて、リアルタイムに意見や考えを見ることで、多くの人の考えに触れることができるので、自分の創造性を伸ばすことにもつながる。生活経験が異なるからこそ、多くの人の考え方に触れることは生徒にとって大切な機会であると考ええる。最後に、生徒とタブレットPCだけの双方向学習にならないように、生徒同士の関わり合いを生み出しながら自身の生活を豊かにするような授業展開をしていく必要がある。